

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりを大切に、ゆったりとした生活を提供します。」という理念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記理念をモットーに、入居者様の個性を受け入れ、理解し、それぞれに合わせたケアを行っている。	○ 個々の生活スタイルはあるが、同時に集団生活の場でもあるため、時には個人の事ばかりでなく、集団に合わせたサービス提供も行わなければならない時もある。そのバランスをどのように工夫していけばよいのかが日々の課題である。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域交流会や生きがいデイサービス事業に参加し、地域の方に理解してもらえるよう話をしている。また、家族には、参加した話を伝えている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方とあいさつしたり、声を掛け合う関係はできている。	○ しかし、施設に遊びに来てもらえる関係までには至っていない。いい関係作りを心がけていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	定期的に地域交流の場である生きがいデイに参加している。	○ 行事内容によっては参加しにくいものもあり、すべてに出られるとは限らない。運動会や遊び理テーションなど、地域の人々とともに参加できるものを選び、参加し、交流を楽しんでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>推進員会議がなかなか開けていないのが現状である。グループホームを理解いただくためにも定期的に開催できるように努めていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>交流の機会がなかなかないのが現状であるため、行き来する機会を作りたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>入居者同士のトラブルがないよう努めている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際も退居の際も口頭や紙面を持って説明し、十分に納得いただけるよう話している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に何回か、家族同席のもと担当者会議を開くときに、本人の不満や苦情を言える機会を設けている。また、毎日の生活の中で、本人の様子を確認しながら、不満や苦情を受け止め、それに対して日々臨機応変に対応できている。	○	個々の気持ちも受け止めなければいけないが、集団生活の場であることも考え、個人の訴えをどこまで通すことが妥当なのか、日々、職員間で考えている。検討することで、それらが運営に反映できていると思うため、これからも検討し、模索しながらいい結果が生まれるよう努力していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態に関しては、ご家族が来訪した際に詳しく話している。金銭管理は、本人のお小遣いを預かり、その内訳を記録し、領収書とともに小遣い帳をコピーし、家族に返却している。職員の異動に関しては、その都度説明をしている。	○	事業所や法人として、家族の方に報告すべきことは、紙面で事務連絡として、請求書を送るときに合わせて同封している。その他、報告がある時には、来訪時にわかるように、玄関入口に連絡として掲示したり、事務連絡の用紙を送るなどの対応を行っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に本人の状態を話す時に合わせて、家族の意見、苦情もお伺いしている。また、時々、電話連絡も入れて、意見をうかがうようにしている。	○	運営推進会議がなかなか家族参加で行うことができていないので、参加を促し、意見を聞ける場を設けたい。法人としては、無記名にて、アンケートを行い、施設への苦情・不満を聞く機会はあったが、全員の家族から回収はできなかった。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回、職員会議を開いている。毎回、テーマを設定し、それについて職員間で話し合い、結果、実行している。	○	ケース検討会議も合わせて行っており、入居様それぞれの変化や家族についての報告及び検討を行っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表にて調整しているが、突発の時などは、残業・早出で調整をとっている。	○	申し送りをしっかり行い、ノートやカレンダーに書き込み、忘れないようにしておいたとしても、事がうまくつながらないこともあるため、業務に支障をきたさないよういい方法を考えたりなどして努力していきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの関係をつくるというグループホームの運営方針に基づき、運営者はそれを理解しているため、職員はほとんど固定されている。しかし、やむをえない状況で退職及び異動になる場合には、本人や家族に説明するなどの配慮を行っている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人として、新人研修及び管理者研修を行っている。法人外の研修も申しれば受けることができるものもある。</p>	○	<p>職員不足のため、研修に参加できない時が多く、今年度は外部研修に参加できる機会がなかった。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		○	<p>地域の同業者と交流する機会がなく、なかなか外に出かけられないのが現状である。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		○	<p>法人として取り組んでもらいたいと現場の職員は願っている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		○	<p>法人として取り組んでもらいたいと現場の職員は願っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設・職員に対して緊張されることのないよう安心できるような配慮をする。	○ 趣味・特技・就かれていた仕事などの話をきき、雑談しながらご本人の様子、状態を受け止める。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	来訪時または電話連絡にて以前の生活習慣・生活環境などを丁寧に聞きとる。	○ 担当者会議を開いたり、電話や来訪時に近状報告及び情報交換を行い、信頼関係のもとにともに介護をする協力者として、関係を築いていくことができるよう心がけている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー及び介護職で話し合い、その時に本人や家族が必要としているサービスを的確に見極め、アドバイスやサービスを行っている。	○ 家族とは常に信頼関係のもとに相談を互いにし合える良い関係を築いていたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に至る前に何度か施設見学をして頂き、リビング等で他の入居者と顔を合わせておく。また、施設での生活での説明等、家族も施設で生活させることを不安に思うことがないように詳しく話をしている。	○ ご家族にも施設での行事などに参加してもらい、他の利用者と交流を持っている機会を設けている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の生活様式と現代との違いについて教えていただいている。	○ 毎月のカレンダー作り・季節に合わせた壁面装飾を制作するだけでなく、飾る位置・場所などすべての作業をともに行う。また和裁・農業・料理の話を通じて一緒に体験する

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に情報交換を行い、施設優先の考え方ではなく、ご本人の生活スタイル、好みに合わせたケアを心がけている。家族が来訪しやすいような気軽な雰囲気と相談しやすいような姿勢を心がけている。	○	体調不良、変化にいち早く気づき、病院受診・薬の検討等を行い、本人を支援している。その際、家族には必ず相談したり、報告したりし、本人を施設任せとすることなく、ともに介護する同士として、ご意見、ご協力いただいている。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの家族関係、本人の生活スタイルを十分に理解し、今後も継続して関係を続けていくことができるように支援させていただいている。そのため、ご本人の状態に変化があった時には、早急に家族へ連絡・報告し、ご協力やご理解をいただいている。	○	ご家族が、本人を施設に預けっぱなしにすることなく、常に忘れ去られる存在にならないように、来訪時には必ずご本人の近況を伝え、確認や要望があればうかがい、実行し、それをまた報告したりと関わり続けていくことができるように支援させていただいている。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までのなじみの関係を継続することができるよう、友人の出入りや外出などを自由に行っていた。例えば、入居以前から通われていた馴染みのパーマやさんには、迎えに来ていただき、継続してかかっている。	○	地元住民との交流を生きがいデイに参加することで行っている。その場所に入居前からの住民も参加されており、継続して交流ができています。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話の中での不安・不満の声を聞き逃さず把握し、的確な対応をしている。	○	テーブル席の配慮、入浴の順番、外出時の乗車メンバーなど不安のないような配慮を心がけている。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	来訪される場合には快く受け入れ、電話対応等も親しみをこめ対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活スタイル・リズムを尊重し、希望や意向にそえるよう努めている。困難な方は家族の協力を得るとともに声掛けと触れ合いを大切にしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談及び契約時に家族に伺っている。ご本人へは、毎日の会話から引き出し、理解するように努めている。その際には、個人のファイルに記入し、他の職員とも情報を共有できるように心がけている。	○ 自宅にいた時の環境に少しでも似せていただくためにもなじみの家具や布団、ピアノなどを持ち込んでいただいている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活状態・心身状態は職員同士の情報交換・申し送りにてここの情報の共有に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人・家族の希望を聞き、職員の意見をも参考に必要に応じた介護計画を立てている。	○ 入居時、必要時には家族・本人・職員とで担当者会議を開き、情報を交換し、その時の状態に適した介護計画を立てている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	有効期間が切れる際には、家族と本人とともに担当者会議を行っている。その他、心身の状態の変化に伴い、会議を開き、その時の状態に応じたプランを作成することもある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録及び個々の記録に記入し、職員同士で情報を共有している。その際に計画の変更が必要な時の参考資料として使用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ、外出。買い物、散歩など柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		○	本人の希望ではないが、施設として、地域住民との交流の場である生きがいデイに参加している。その援助員には、老人会の会長さんや民生委員、健康推進員の方なども参加されていたり、公番の警察官や地元の医師の参加などもあるので交流し、情報をえるいい機会になっている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	他のサービスを支援する機会はないが、慣れてしまったホームでの生活に色をつけるためには、他のケアマネージャーさんなどの交流は必要であると思っている。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	法人としての交流会などで包括支援センターとこうりゅうすることはあっても、ホーム独自で協働することは少ない。今後、支援の質の向上のためにも交流する回数を増やしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>定期的な往診以外に本人の状態に変化があった時には、看護師に随時報告し、受診や入院の手配を行っている。その際、適切な方法をとっている。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>隣接するクリニックには、専門医はいない。主治医である医師の判断、もしくは家族からの要望にて、他の病院の受診を行うこともある。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>隣接するクリニックに常勤する看護師の中にグループホーム担当の看護師が常勤しており、その人に日常の健康管理および医療活用の支援を協力してもらっている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>職員が病室に何度も足を運び、本人が安心して療養することができるようサポートし、身の回りの必要な物の準備や洗濯などもおこなっている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重症化した場合には、主治医や看護師に相談し、入院及び退居の方法をとっている。その後、クリニック及び隣接する老健への移動、もしくは他施設への紹介手続き等をおこなっている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>主治医や看護師と相談し、グループホームのできることで、できないことをよく話し合っている。ご本人の日頃の状態については、常に変化があった時、訪問診療以外の受診にて把握頂き、気にかけてもらう体制を整え、緊急に変化があった時にも柔軟な対応をしてもらえよう連絡調整は欠かせない。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ホームから他施設へ移り住んだ方に関しては、相手側の施設へ十分な申し送り及び情報提供書を作成し、その方の生活スタイル及び病状等、明確にわかるように伝えている。自宅からホームへ移り住んだ方の場合、少しでも早くホームでの生活になじんでいただくことができるよう配慮している。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの保護に努めている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者個々の希望を出来る限り援助している。</p>	<p>○</p> <p>本人に必ず説明している。家族にも説明をし、同意を得ている。その際、ご本人や家族の納得のいく方法をとるように心がけている。また、こちら側から提案し、実行するときもあるが、それに対しては必ずしもではない。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>時と場合により、職員側の決まりや都合を優先してしまうこともあるが、主として、一人ひとりのペースを大切に、個々の時間を大切に有効にお使いいただいている。</p>	<p>○</p> <p>集団生活の中で、一人ひとりのペースでどのように過ごしたいかを意思表示できない人もいるので、一人ひとりに合わせた生活支援が難しいと感じることもある。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>意思表示ができる方は、本人が希望される美容室へ予約し、病室の送迎サービスを利用して散髪、パーマを行っている。</p>	<p>○</p> <p>意思表示が困難な方に関しては、法人内の理容室を利用し、定期的に散髪してもらっている。</p>
	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p>		<p>お昼の時間を兼ねて、職員同士で情報交換を行</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはお手伝いをしてもらっている。	○	い、その後のケアの確認の時間にもなっているため、入居者との食事は行っていない。しかし、イベント事などの時には、ともに食事やお茶を楽しんでいる。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒の提供は行っていない。	○	煙草を好む方がいるので、場所や時間を決めて、きちんとした管理のもと提供している。おやつや飲み物は好みに合わせて提供したり、本人が保管していたりする。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日々の状態観察及び生活パターンを把握し、それぞれの現状に合った対応を心がけている。	○	
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	十分に把握し、入浴を楽しむことができるように心がけている。	○	しかし、職員の都合やほかの入居者との関係から、曜日や時間は決めていることもあるが絶対ではない。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人の状態に合わせて行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意とする絵や裁縫、料理など行っていただくこともある。	○	なかなか行うことができなくなっている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が管理できる方に関しては、高額でなければ管理していただいている。外出時には、必要な時には、自由に買い物したり、支払いもお願いしている。	○	管理できない方に関しては、職員が管理している。管理できる方のお小遣いも預かり、病院受診等、必要時には職員が代わりに支払っている。明細書とレシートを月に1回、家族に送付している。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している		○	外出、買い物の希望があれば、確認して同行している。また、希望が確認できない方に関しても、職員と買い物に出かけている。しかし、年々、外出は減ってきている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を経て行っている。	○	花見や紅葉狩り、公園等への外出などの計画を立てて行っている。しかし、入居者の高齢化、ADLの低下により、計画しても実際は外出拒否にて出かけられないこともある。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれている方もいて、自由に居室にて電話をしている。持っていない方でも、事務室にて電話をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に来訪日時の制限を厳しくは決めていないため、いつでも気軽に来訪出来るようになっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関を解放しておくことはない。	○	居室の窓は開けている。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを配慮し、所在を把握、安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々により、必要なものそうでないものを判断し、家族の了解を経て、居室でない所に保管させていただいているものもあるが、一切すべてではない。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの心身の状態を十分に把握し、個々に応じた事故防止に取り組んでいる。	○	死角が多い建物のため、転倒の発見が遅れてしまうこともある。何度も訪室、巡回を心がけている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		○	職員により、熟知のレベルには差がある。研修及び訓練を定期的に行うことが望ましいが、現状できていない。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練は行っている。	○	地域住民の協力の働きかけは行っていない。取り組んでいきたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居の際、十分に説明している。その後は、来訪時に現在のご本人の近況報告とその後について十分に説明し、理解を得ながらおこなえている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変に築いた際には、職員同士の情報交換、申し送りにて情報を共有し、必要の際にはクリニック看護師相談、受診という流れをとっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬ファイルを作成し、理解に努めている。また、服用したことによる症状の変化についても把握している。	○	必要の際にはクリニックへ報告、内服薬の変更および中止等を行っている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけ等に取り組んでいる	体操・ヤクルト製品の引用・食事の工夫を行っている。	○	体調の変化のファイルを作成し、そのファイルにて、排便のチェック。排便が数日見られなかったり、下痢の症状が続く場合には、お薬の調整、浣腸等、クリニック看護師に相談しながら行っている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前の口腔ケアにて、口腔内及び義歯のチェックを行っている。必要時には歯科に連絡し、受診の流れをとっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士指導のもと、食事管理をし、水分補給も個々に合わせて行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	手洗い・うがいを徹底している	○	法人内感染対策委員会に出席し、新しい情報を得るとともに、発生した時の為に、対応の仕方について学んでいる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ハイターや消毒液の入ったスプレーを使用している。食材もなるべく火を通し、生モノはなるべく避けるようにしている。	○	食材は、毎日、新鮮なものが、外部業者から配達されている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		○	特に行っていない。鍵もいつも閉めており、インターフォンも入口から遠い位置に設置しているため、入りにくいと思われる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごすことができるように心がけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の様子を確認しながら行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	新しい所に住むのだからと新品を用意されるご家族が多い。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	共に行いたいと思い試してみるが、なかなか継続には至らない。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。) 入居者の家族には、来訪時や電話等でご本人の状態をお伝えしている。家族と相談しながら、ご本人のケアについて情報交換をよくおこなっている。毎月の請求書とともに、ホームでの生活をつづった新聞や写真をお送りし、ホームでの生活状況をお伝えするとともに、ご参加できそうなものにはお誘いするなど、工夫をしている。